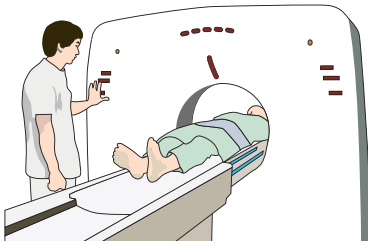


目次	◆ 診療科紹介(放射線科)	◆ 飲酒についてのABC
	◆ 地域医療懇話会を開催	

放射線科紹介



部長 橋本 達

スタッフ 放射線科診断専門医(橋本 達 小林 美登利)
放射線技師 10名
事務職員 専任1名 兼任数名
外来看護師(他科と兼任) 数名

当院放射線科には、CT(64列MDCTで冠動脈造影CTにも対応)、MRI(1.5T)、透視撮影装置数台、血管造影装置(心臓血管造影、腹部血管造影に対応)、一般X線撮影装置数台、マンモグラフィー撮影装置などが整備されています。PACSと呼ばれるモニター診断設備が整備されており3D画像などを駆使したレベルの高い診断を行っております。

診断専門医2名は経験豊富で、小林先生はIVR(カテーテル血管内治療など)にも熟練しています。心臓カテーテル検査治療は熟練した循環器内科専門医が施行しています。

放射線技師は、CT、MRI、血管造影、マンモグラフィーは、長年訓練を積んだ専任技師が担当しておりレベルの高い撮影サービスを提供しています。マンモグラフィー専任技師には女性技師もおります。

放射線科専任事務職員もベテランで画像診断サービスについて詳しく、看護師(他科と兼任)も放射線科での経験が豊富です。

他科の医師とも密に連携して安全安心でレベルの高い放射線科診療に努めています。

今回はMRI検査についてのごく簡単な説明と、患者様へのMRI検査受診の際の注意点をお知らせ致します。

MRI検査とは、強い磁場の中で電波を当てて、人体の断層像を得る検査で、放射線は使用せず人体に全く無害な検査です。撮影部位に応じた器具(コイル)を使用します。電波を発生する際に工事現場のような大きな音がします。

MRI検査受診の際の患者様への御願い

問診票(カラー図解入り)に正確に記入して下さい。ペースメーカー装着などMRI検査が非常に危険な場合があります。体重も良好な画像を得るための機器調整に必要ですので大まかで結構ですので記入よろしく御願います。

強い磁場の中に入りますので、金属類、磁気カード類などは持ち込み厳禁です。ヘアピン、装飾品、入れ歯、コンタクトレンズ、湿布、カイロなどもはずして下さい。金属含有物質を含む場合が多いので化粧も落として下さい(専用洗面台あり)。ロッカー鍵、めがね、補聴器などは検査室入室前に預かります。

検査中は大きな音がしますのでヘッドホン(あるいは耳栓)をして頂きます。

検査中万一気分が悪くなった時はブザーを握ってお知らせ下さい。
安心安全で良い検査ができるよう御理解御協力よろしく御願致します。

お酒が美味しい季節になってきましたが、お酒も飲み方によっては急性アルコール中毒など生死に直結する問題を起こしかねません。

そこで今回は酒で起こる問題の中から、アルコール依存症（Alcoholism: A）、飲酒と妊娠（Baby: B）、がん（Cancer: C）の3つについて考えてみたいと思います。

学生時代には飲み会でしか飲まなかったのに、会社に入り仕事で飲んだり自宅で晩酌を始めたりしてお酒の量が増える人がおられます。酒量が増えた事で「俺は酒に強くなった」と思われる方もいるかも知れませんが、多くの場合は耐性といって酔うために必要なアルコール量が増えたに過ぎません。そうこうしていると中には晩だけでなく仕事を切り上げて酒を飲みたくなったり、一旦酒を飲み始めると適当に切り上げる事ができなくなったり、酒が原因で遅刻したり仕事をしくじったりする人が出てきます。これをアルコール依存症と言います。アルコール依存症はれっきとした病気で、断酒出来れば良いのですが、実際にはそう簡単に治す事ができません。さらに飲み続けるとアルコール無しでは手足が震えたり頭痛が起こるようになり、そのような不快な症状を抑えるためにまた飲酒をするという状態になってしまいます。日本ではアルコール依存症の方が230万人いると言われてい

ます。

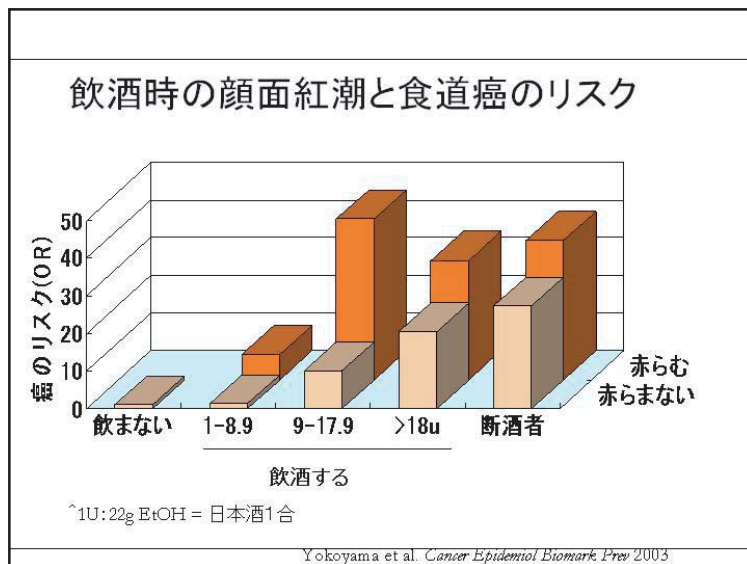
表に示した様な自覚がある場合は早めに飲酒を避けるように心がけるようにしましょう。

さて、世の中にはお酒を勧めては絶対ダメな人種が2種類います。1種類はアルコールの解毒酵素が欠損している人です。胃腸で吸収されたアルコールは肝臓へ運ばれ、そこでアルコールはアセトアルデヒドという物質に変わります。アセトアルデヒドは次にALDHという酵素によって酢酸に分解されるのですが、このALDHの遺伝子には酵素活性の強い遺伝子と活性の弱い遺伝子があるのです。1対2つあるALDH遺伝子が両方とも酵素活性のない遺伝子だった人は酒を飲むと体内にアセトアルデヒドが蓄積し、悪酔い、吐きけなどが持続するため本来お酒を飲もうとしません。この人たちにお酒を飲ませようとしても悪酔いを起こすだけで飲めるようにはなりません。

妊娠中の女性にもお酒を勧めてはいけません。アルコールもアセトアルデヒドも胎盤を容易に通過するため、妊娠中の女性がお酒を飲むと胎児は女性の体内と同じレベルのアルコールやアセトアルデヒドに曝される事になります。さらにアルコールには胎盤の血管を収縮し血流を減少させる作用もあるため、胎内の赤ちゃんの発達に与える影響は大きくなります。結果として流産・死産だけでなく、妊娠2ヶ月など妊娠初期の飲酒では奇形や独特の顔貌が発生しやすくなり、妊娠中後期の飲酒では胎児の発育障害や中枢神経障害が発生しやすくなるとされています。従って妊娠が分かり次第、飲酒は避けるように周囲でも配慮しましょう。母乳にもアルコールが分泌されます。禁酒は出産後も継続するのが安全です。

昨年は有名な歌舞伎役者や歌手の方が食道がんで亡くなられた年でもありました。週刊誌を読むとこれらの方々はいずれも酒豪であったようです。お酒として飲んだアルコールが食道を通過する際に刺激となることはもちろんあるのですが、さらに肝臓で代謝されたアセトアルデヒドには発がん作用がある事が判っております。

このアセトアルデヒドは唾液中に分泌され唾液と共に喉から食道にかけての組織を刺激していくため、咽頭喉頭のがんや食道がんが増えると言われていいます。また酒豪でなくてもアセトアルデヒドが蓄積しやすい体質の人（若い頃、飲酒で顔が真っ赤になっていた人）はこれらのがんや肺がんのリスクが高いとされています。このような体質の人や酒もタバコもたしなむ人は、念のため年1回の胃カメラによる食道チェックや胸部レントゲンによる肺のチェックを受ける方が良いでしょう。



アルコール依存症のチェックリスト

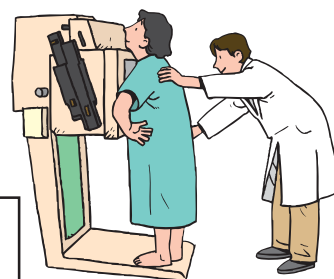
男性の場合

- 食事が時々抜けたりして不規則だ。
 - 糖尿病、肝臓病、心臓病のいずれかがある。
 - 酒を飲まないで寝付けない。
 - 二日酔いで仕事を休む事がある。
 - 酒を止める必要を感じた事がある。
 - 酒を飲まなければいい人と言われる。
 - 家族に隠れて飲んだことがある。
 - 酒が切れると寂しい、苦しい。
 - 朝酒昼酒の経験がある。
 - 飲まない方が良い生活になりそうと思う。
- (☑ が4つ以上でアルコール依存症の疑いあり)



女性の場合

- 酒を飲まないで寝付けない。
 - 医者から酒を控えるように言われたことがある。
 - 今日だけは飲むまいと思っても酒を飲んでしまう事が多い。
 - 酒の量を減らそうとしたり、止めようとしたことがある。
 - 飲酒しながら、仕事、家事、育児をすることがある。
 - 私のしていた仕事をまわりの人がするようになった。
 - 酒を飲まなければいい人だとよく言われる。
 - 自身の飲酒について後ろめたい思いを感じた事がある。
- (☑ が3つ以上でアルコール依存症の疑い)



地域医療懇話会を開催しました

～第18回大阪みなと中央病院地域医療懇話会～

去る6月21日(土)、弁天町のホテル大阪ベイタワーにて第18回地域医療懇話会を開催いたしました。

特別講演といたしまして、「高齢者高血圧」の治療についてのスペシャリストである(日本高血圧学会の高血圧治療ガイドライン2009年度版の事務局長・2014年度版においても高齢者高血圧の項をまとめる)大阪大学大学院医学系研究科から加齢医学教授、楽木 宏実先生をお招きして「**高齢者の高血圧治療—最近の話題**」をご拝聴いただきました。貴重なお話をわかりやすく聞かせていただき質疑応答で盛況となりました。

続いて当院からの診療科講演として中野外科部長による「**外科は何歳まで手術をするか**」、辻副院長による「**当院における緩和ケア：チーム医療の実践について**」の2題を発表させていただきました。

最後に今回初めての試みとしてスライドを利用して各診療科紹介を行いました。

懇親会では、賀来医院 賀来清高先生にご挨拶を頂き、島崎診療所 島崎久美子先生の乾杯の挨拶で始まり、先生方から直接色々なお話をお伺いすることができ、有意義な機会となりました。当日は大変お忙しい中、港区を始め近隣地域の先生方にご出席いただきましたことを深く御礼申し上げます。

今回で18回を迎えました懇話会は、大阪市港区とその近隣の地域で開業されている先生方に学術講演ならびに懇親会を通じて当院のことを知っていただき、さらに率直なご意見などもお聞かせいただいて円滑な地域医療連携を目的に毎年開催しています(大阪府医師会生涯研修3.0単位)。これからも大阪みなと中央病院は地域の先生方、皆様方に信頼される病院となるよう、院長以下職員一同、努力して参る所存でございます。

今後ともよろしくお願いいたします。

地域医療連絡室

懇話会の様子



診療科講演
副院長 辻 晋吾



特別講演
大阪大学医学系研究科
楽木 宏実 教授



乾杯の挨拶
島崎 久美子 先生

発行

大阪みなと中央病院／地域医療連絡室

〒552-0021 大阪市港区築港1-8-30

TEL 06-6572-5721(代表) FAX 06-6572-6713

<http://minato.jcho.go.jp/>

